

研究ノート

三重県中部におけるカヤネズミ *Micromys minutus* の繁殖習性に関する若干の知見

Some findings on the reproductive habits of the harvest mouse, *Micromys minutus*, in central Mie Prefecture, Japan

田村香里¹⁾・佐野 明²⁾

¹⁾ 〒514-0061 三重県津市一身田上津部田 3060 三重県総合博物館

²⁾ 〒514-0061 三重県津市一身田上津部田 3060 三重県総合博物館 研究協力者

キーワード：ネズミ科，麦畑，球巢，営巣習性，農地管理

(2022 年 9 月 22 日 受付)

Kaori TAMURA* and Akira SANO

^{1, 2)} Mie Prefectural Museum

Isshinden-kouzubeta 3060, Tsu, Mie 514-0061, Japan

*Corresponding author: tamurk02@pref.mie.lg.jp

Abstract

Sixteen spherical nests of the harvest mouse, *Micromys minutus*, were found in six spring-grown wheat fields in central Mie Prefecture. This proves that the harvest mice in this area breed in spring. Additionally, four cases of infants in nests made with rice or reed leaves were confirmed also in summer.

Key words: Muridae, wheat field, spherical nest, nesting habit, farmland management

はじめに

カヤネズミ *Micromys minutus* はネズミ目ネズミ科に属する小型のネズミで，国内では本州中部以南，四国および九州に分布し（Iwasa, 2015），三重県では海岸付近から標高 1200 m を超える山地まで広く分布する（清水，2014）。

本種は春から初冬にかけて，イネ科植物等に植物の葉を絡み合わせて球状の巣（球巢）を作り，その中で出産，哺育を行う（白石，1962, 1965, 1969; 畠・夏原，2006; Hata, 2011）。本種の繁殖サイクルについては，春季と秋季にピークを迎える 2 山型であり，夏季の繁殖は稀とする記述もある（金子，2005）。本州では 5 ～ 12 月まで継続的に出産が見られるという報告もあ

り（白石，1965），京都府南部の河川敷で実施された調査においても，5 月上旬から 9 月末まで営巣活動が継続的に行われたことが報告されている（澤邊ほか，2005）。

三重県における本種の確認記録を整理した資料（清水，2014）によれば，球巢発見事例 145 例の約半数にあたる 67 例が 8 月に集中しており，そのほとんどが水稻への営巣である。このことは，水稻の生育過程から考えて，三重県では盛夏にもさかんに繁殖していることを示唆する。

一方，三重県では 4，5 月の球巢確認記録はきわめて少なく（清水，2014），春季の確かな繁殖記録は，2008 年 5 月 1 日に亀山市の河川敷で球巢と巢内の幼

獣が確認された例（清水・富田，2010）があるにすぎない。

今回，筆者らは2022年に調査を実施したところ，三重県中部の複数のコムギ畑（以下，麦畑）において，本種の球巣を確認した．これらのうち，少なくとも8例は5月以前に繁殖した根拠となるものである．さらに，津市，多気町および志摩市の水田や休耕田，河川敷において，県内での確認例が少ない球巣内の幼獣を確認したので，あわせて報告する．

本文に先立ち，多気町の麦畑において，多くの球巣を発見し，筆者らに情報を提供してくださった三重県総合博物館ミュージアムパートナーの大久保律子氏，大久保一成氏，球巣内の幼獣の確認記録をご教示くださった三重昆虫談話会の乙部 宏氏と三重県総合博物館ミュージアムパートナーの中山 惇氏，本稿に対し，貴重な助言を賜った東京女子大学の石井信夫名誉教授に深謝する．

麦畑における球巣の確認記録

三重県中部の麦畑におけるカヤネズミの球巣の確認場所を図1に，確認日や営巣位置等の詳細を表1に示す．球巣が確認されたのは，多気町，松阪市および津市の6カ所の麦畑で，刈り取り前の5月下旬から6月中旬に計16個の球巣が確認された（図2）．巣が作られた植物は，1例を除き，コムギで，1例は畔に自生するスギナであった．いずれの巣でも幼獣は確認できなかった．

この時期，コムギは収穫直前であり，その草高は75～110 cm程度であったが，球巣の下端の地上高は17～80 cm（平均35.1 cm）であり，多くの場合，畔からの発見は非常に困難であった．今回の確認例のうち，多気町での11例（No.1-11）は刈り取り機による収穫作業時の発見であり，松阪市木の郷町の2例

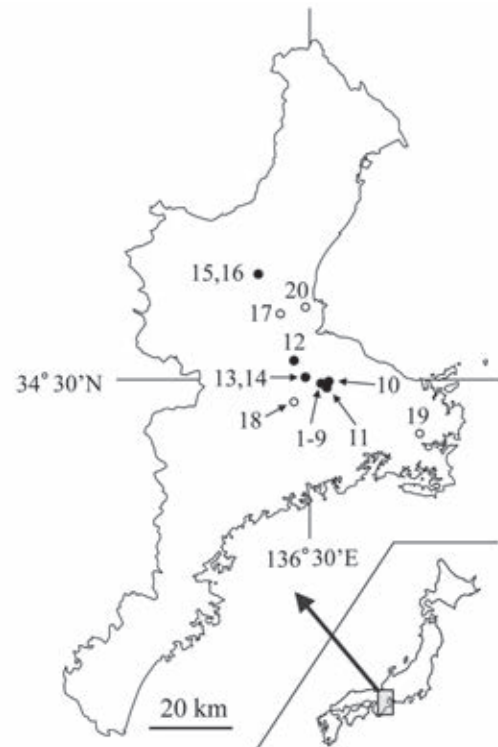


図1. カヤネズミの球巣確認地点の位置（三重県）．
●，カヤネズミの球巣が確認されたコムギ畑；
○，幼獣が確認された球巣の確認地点．
（番号は表1および本文中の地点番号に対応）．

表1. 三重県中部のコムギ畑で確認されたカヤネズミの球巣（2022年）．

No.	確認場所	確認日	草高	球巣の高さ*	球巣径
1	多気町五佐奈	5月27日	45#	17	8
2	多気町五佐奈	5月27日	95	51	—**
3	多気町五佐奈	5月28日	U	U	8
4	多気町五佐奈	5月29日	U	U	8
5	多気町五佐奈	5月29日	U	U	8
6	多気町五佐奈	5月29日	U	U	9
7	多気町五佐奈	5月30日	95	42	10
8	多気町五佐奈	5月30日	U	U	9
9	多気町五佐奈	6月2日	U	U	8
10	多気町土羽	6月4日	110	80	8
11	多気町四神田	6月13日	U	U	7
12	松阪市伊勢寺町	6月2日	80	26	9
13	松阪市木の郷町	6月2日	75	30	10
14	松阪市木の郷町	6月2日	75	30	11
15	津市美里町穴倉	6月3日	75	19	7
16	津市美里町穴倉	6月3日	75	21	9

番号は図1に対応する．単位はいずれもcm．U:刈り取り時に確認されたため不明．

*:球巣の下端の地上高．**:未完成の巣であり，計測不能．

#:コムギ畑の畔に自生するスギナに形成された巣．

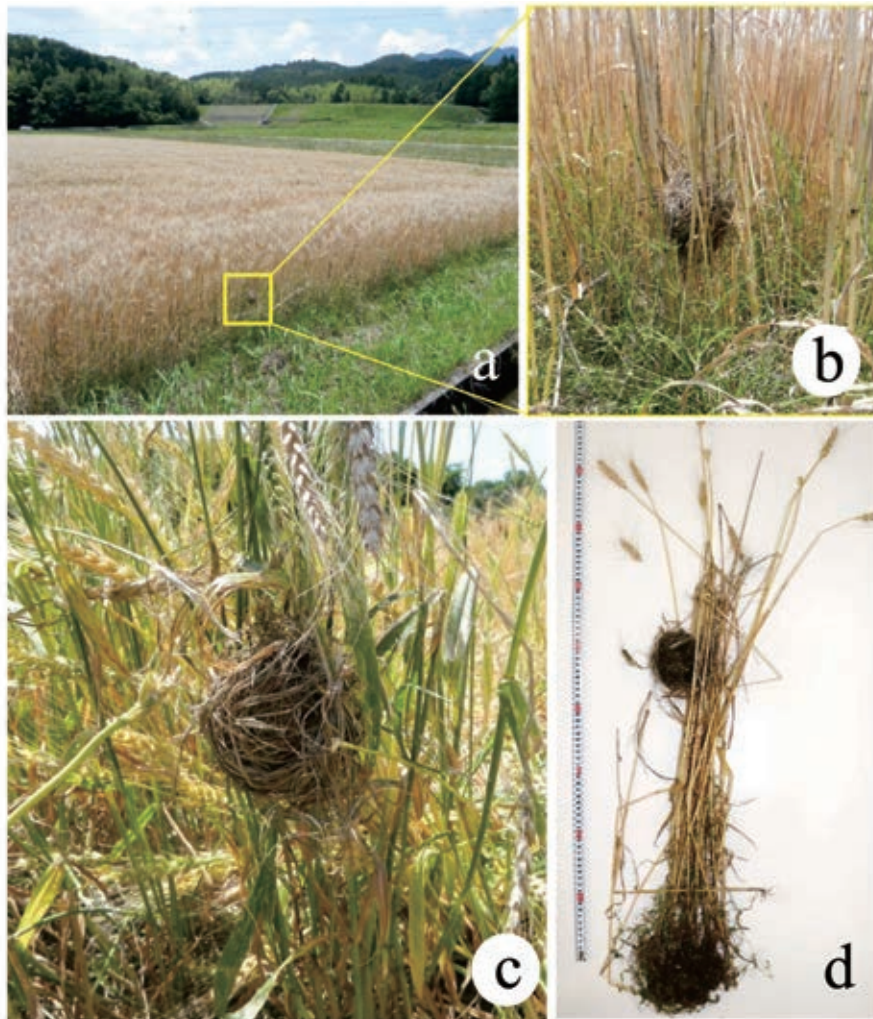


図2. 三重県中部のコムギ畑で確認されたカヤネズミの球巢。
a, b, 松阪市伊勢寺町で確認された球巢；c, 松阪市木の郷町で確認された球巢；
d, 多気町五佐奈で採取された球巢。

(No.13-14) はイノシシによって倒された株の間で見つかったものである。また、それ以外の3例は畦や公道に近い周縁部の株に作られた巣であった。春季の営巣位置が低いことについては、白石（1969）も指摘しており、このような習性が春季の営巣確認例が少ない一因かもしれない。

三重県中部において、秋に播種されたコムギは通常、3月中旬以降に茎が伸び始め、5月下旬から6月上旬に刈り取られる。このため、いずれの事例も春以降、5月中旬までに営巣されたものと考えられ、この地域でも春季にカヤネズミが繁殖していることが確認された。

三重県中部の本種の生息地には、麦畑と水田が混在する場所が広く見られるが（図3）、生育期の異なる2種のイネ科作物が栽培される場所では、春から初秋にかけて、より長期間、営巣に適した環境が提供され、多数回の繁殖が可能になると思われる。

球巢内での幼獣の確認記録

三重県において、球巢の確認記録は多いが、巢内での幼獣確認例は少ない。清水（2014）によれば、いなべ市（1979年10月14日、1980年11月30日）、桑名市（1999年6月15日）、亀山市（2008年5月1日）、津市（1986年9月16日）、松阪市（2000年11月13日、2010年8月21日）および南伊勢町（1998年10月11日）の8例に過ぎない。筆者らはこれまでに下記の2例を確認し、さらに2例の情報提供を得た。なお、各地点の番号は図1に対応する。

17. 津市一志町田尻, 2003年9月9日, 水田, 2子.
18. 多気町色太, 2021年8月26日, 水田, 4子.
19. 志摩市磯部町下之郷, 2020年8月13日, 休耕田, 1子, 2子（2巢）（中山 惇, 私信）.
20. 津市雲出本郷町, 2021年8月3日. 河川敷, 2子（乙部 宏, 私信；図4a）.



図3. 松阪市木の郷町のカヤネズミ生息地（2022年6月2日撮影）。
P, 水田；W, 麦畑。水田と麦畑が混在する。

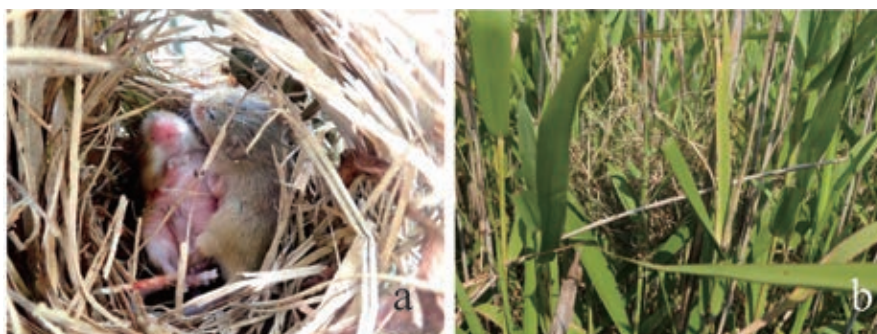


図4. 津市の河川敷および湿地において夏季に確認された球巣と巣内の幼獣。

a, 雲出本郷町の河川敷で確認された巣内の幼獣（2021年8月3日, 乙部 宏 撮影）；b, 白塚町の湿地で観察された未完成の巣（2021年6月24日, 撮影）。その後, さらに造巣が進んだことを確認した。

さらに, 筆者らは津市白塚町の海岸近くのヨシ原において, 2021年6月24日に未完成の巣を見つけ, 同月27日にはさらに造巣が進んだことを確認した(図4b)。本種の繁殖活動は夏季には稀とする記述もあるが(金子, 2005), これらの記録は, 三重県中部においては, 夏季にも繁殖していることを改めて示すものであり, 白石(1965)や澤邊ほか(2005)の報告とも一致する。

以上のように, 三重県中部において, 春季および夏季にカヤネズミが繁殖している根拠となる複数の事例を確認した。前述のとおり, 県内では10～11月の幼獣確認記録もあり, 本種は春季から晩秋にかけて継続的に繁殖している可能性が高い。

引用文献

- Hata, S. 2011. Nesting characteristics of harvest mice (*Micromys minutus*) in three types of Japanese grasslands with different inundation frequencies. *Mammal Study*, 36: 49-53.
- 畠 佐代子・夏原由博. 2006. 滋賀県におけるカヤネズミの生息適地要因. *ランドスケープ研究*, 69: 549-552.
- Iwasa, M.A. 2015. *Micromys minutus* (Pallas, 1771). In: Ohdachi, S.D., Ishibashi, Y., Iwasa, M.A., Fukui, D. and Saitoh, T.(eds.). *The Wild Mammals of Japan, Second Edition*. pp. 170-171. Shoukadoh Book Sellers, Kyoto.
- 金子之史. 2005. 齧歯目 Rodentia ネズミ科. In: 日本の哺乳類 改訂版(阿部 永, 監), pp. 125-144. 東海大学出版会, 秦野.
- 澤邊久美子・畠 佐代子・夏原由博. 2005. 堤防植生の刈り取りがカヤネズミの営巣に与える影響. *ランドスケープ研究*, 68: 571-574.
- 清水善吉. 2014. 三重県におけるカヤネズミの分布. *三重自然誌*, 14: 76-82.
- 清水善吉・富田靖男. 2010. 亀山市の哺乳類. In: 亀山市(編), *亀山市史 自然編*, pp. 499-528. 亀山市, 亀山.
- 白石 哲. 1962. カヤネズミの繁殖習性 I 出産期と産仔数. *九州大学農学部学芸雑誌*, 20: 87-94+2 pls.
- 白石 哲. 1965. 日本の哺乳類2 齧歯目カヤネズミ属. *哺乳類科学*, 5: 1-15.
- 白石 哲. 1969. 九州産カヤネズミの営巣習性. *林業試験場研究報告*, 220: 1-10+4 pls.